


創意開発技術賞	PC 構造物の現有応力を測定するスリット応力解放法の開発
技術開発者	長崎大学大学院 氏名：松田 浩
	
受賞にあたって	
<p>国土技術開発賞を受賞させていただきましたことを大変光栄に存じます。思い起こすと1989年当時西ドイツ Stuttgart 大学留学時にフライ・オットー教授の軽構造研究所で3D写真計測技術を知ったことが光計測に関心を抱いたきっかけです。帰国後、様々な光学的計測機器を用いて建設分野の計測への適用可能性について研究を進めて参りました。1999年 JR トンネルコンクリート片剥落事故後、日経新聞社説に「科学技術が進歩した時代に建設業界はまだ“たたき試験”という旧態依然の手法で行っている」と掲載されていました。計測法のイノベーションが求められていることを痛切に感じ、実験室レベルの計測法を社会実装しなくてはと思いはじめるとともに、産学官の連携の重要性を感じたのもその頃です。当時、苦勞して研究を進めてきた学生のみなさんに感謝です。</p>	
受賞後の動き	
<p>長崎県では、インフラ構造物の点検診断と長寿命化が喫緊の課題となる前の2008年度から道守養成講座を開始しました。道守修了者にさらに先端機器の使用法を教授し、それらを用いての点検診断に取り組めば、膨大な数のインフラの長寿命化に応えるシステムを構築できるのではないかと思います。日本再興戦略でも「安全・便利で経済的な世界に先駆けた次世代インフラの構築」が謳われています。建設分野においてもデファクトスタンダードとして確立すべき課題であると思います。</p>	

